

## 第62次 千葉県教育研究集会

第3分科会（社会科教育・小学校）

13

### 「社会参画への素地育成」を図る社会科学習（小4社） ～農家と民宿による食用花の六次産業化のとりくみを通して～

#### 1 主題設定の理由

戦後60年を経過し、社会は大きな転換点を迎えている。その中において我々は社会参画の経験を通じて、我々は自ら社会を形成する主体であることを自覚し、行動することでよりよい社会へ発展させていく必要がある。

このような社会を生きていく子ども達に、社会参画を経験する場を提供することが社会科教育に求められているのではないのか。社会参画を志向した学習を通して、一人一人が社会のことに積極的に関わり、社会を形成する一員としての自覚を持たせるようにしていきたい。このような学習をすることが、社会科の目標である「平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎」の育成につながると考える。

#### 2 研究仮説

〈仮説1〉 食用花の六次産業化を進める地域の人々の取り組みを教材化し、その工夫や努力に接する場を意図的に設ければ、食用花を通じた地域活性化に対する思いや願いに気づき、地域の人々の営みが社会参画につながっていることを理解できるであろう。

〈仮説2〉 地域の人材を学習パートナーとする学習過程を組み、地域と自分の関わり方を考えさせ、学習パートナーに自分の意見を提案する場を設定すれば、地域の課題解決について考えが深まり、地域に関わろうとする態度が育つであろう。

#### 3 研究内容

○4年生の地域学習において、社会参画の素地を育成するために、食用花の六次産業化に努力する地域の人々の取り組みを教材化することが有効であることを実践を通して明らかにする。

#### 4 結論

○六次産業化に努力する地域の人々のとりくみを教材化し、その工夫や努力に接したことで、子ども達は地域の課題を見出し、その課題解決のための活動が社会参画につながっていることを理解することができた。

○地域の課題解決について学習パートナーに提案する活動を通して、子ども達は地域に関わることの喜びややりがいを感じ、社会参画の素地を育成することができた。

3-1

安房支部

南房総市立忍戸小学校 石井 俊道  
鴨川市立鴨川小学校 粕谷 昌良